

柔道と武道の未来 武道学

第1回組討ちと言う戦闘技術

人類存続の鍵「衣食住武」



縄文時代は、日本列島で旧石器人によって築かれた時代、約1万6,000年前から2,300年前頃まで続いた。縄文土器の使用や、**竪穴式住居**の建設、**狩猟**や**水産物の捕獲**など、日本特有の文化が根付いていた時代。稲作文化が入る事により**余剰生産物（利益）**が生まれ侵略と征服、戦いが生れた。

メソポタミアで生まれた青銅器（紀元前3500年）鉄器（紀元前1500年）は、日本に伝来生産用具と共に戦闘用具として発展。



中国に伝わった金属器は生産用具とともに戦闘用具としても開発が進み戦をより激しいものに変えていく

武器の変遷

金属器の使用はメソポタミアに発する

青銅器（紀元前3500年頃）
鉄器（紀元前1500年頃）

硬い鉄器は工具、農具、武器など実用的な道具に広く使われ青銅器は装飾や儀式の道具となる

青銅器、鉄器とも日本には弥生時代のほぼ同時期に伝わった

平安時代の後期になると武士の発生によって騎兵を核とした弓射と刀剣による斬撃という戦の形態が定着してくる

古墳時代には騎馬戦法も大陸から伝わり大和政権の成立とともに戦は部族的な争いから国家的な権力闘争の《戦争》へと変質していく

柔術の源流・竹内流柔術を今回は、考える。

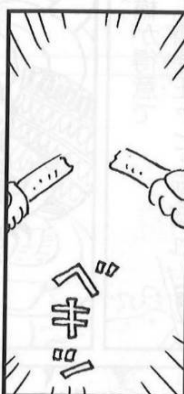
※1 久盛ひさかつ 文電ぶんでん3年(1503)の生まれ
 ※2 約72cm
 ※3 約36cm

竹内流柔術腰廻小具足

竹内流は美作国一ノ瀬城主
 竹内中務大輔源久盛によって
 創始された



天文元年(1532)



※4 約25cm



文禄4年(1595)



天正8年(1580)

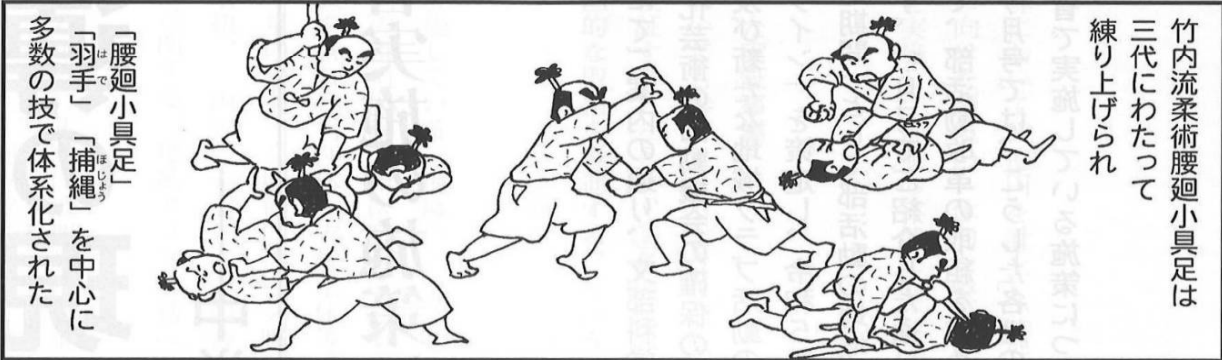




三代目久吉は
諸国武者修行によって
兵法自在の奥義を極め
腰廻小具足を
はじめとする
流儀を完成

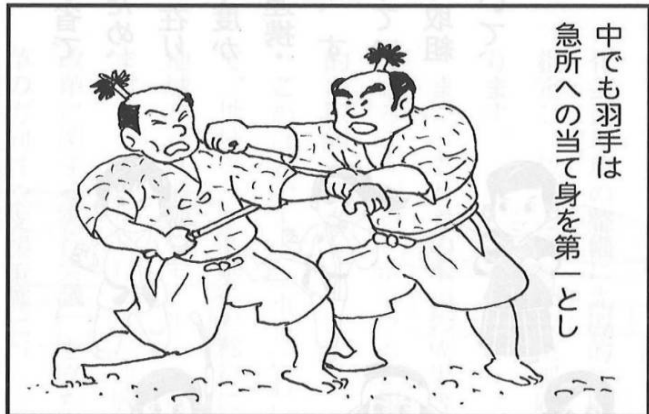


二代目久勝は20歳で
「必勝五ヶ条」の技を会得し
23歳で諸国武者修行に出立
各地での真剣勝負をまとめ
「八ヶ条之事」に集大成

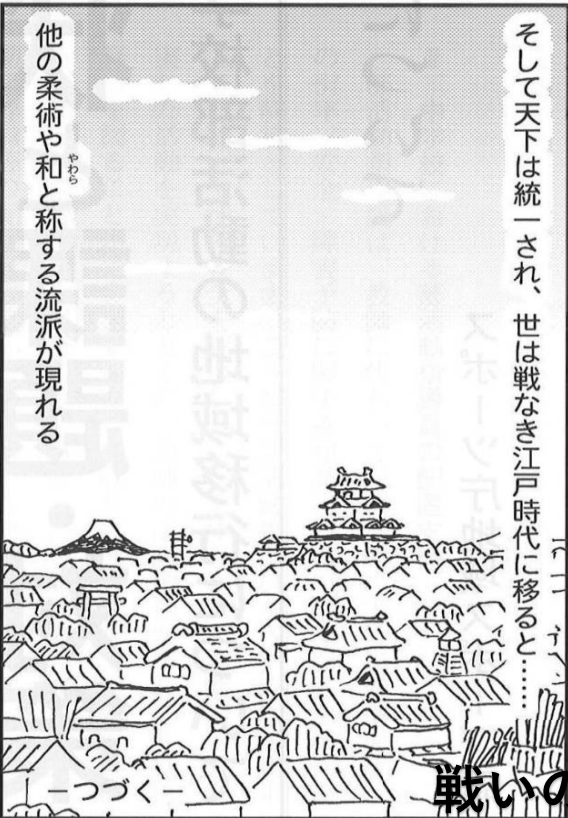


竹内流柔術腰廻小具足は
三代にわたって
練り上げられ

「腰廻小具足」
「羽手」「捕縄」を中心に
多数の技で体系化された



中でも羽手は
急所への当て身を第一とし



そして天下は統一され、世は戦なき江戸時代に移ると……

他の柔術や和と称する流派が現れる



これに続いて
投げ技や留め技を
展開することから
柔術の源流と
いわれている

戦いの無い時代の『衣食住武』



EUでも稽古される竹内柔術